

## ■□■第6回 北上川水系河川整備学識者懇談会 議事概要■□■

日時:平成23年11月21日(月) 15時~16時30分

場所:石巻グランドホテル 天翔の間

(発言者) ● : 委員 ○ : 事務局
-------------------------

### 1. 東日本大震災による被災状況について【石巻市、直轄河川の被災状況説明】

(石巻市より、旧北上川河口部、北上川河口部の被災状況説明)

(事務局より、河川管理施設等の被災状況説明)

### 2. 震災を踏まえた計画の基本的な考え方

(事務局より、資料-3 : 今後の対応方針、資料-4 : 基本的な考え方説明)

- 座長** : 整備計画を今後どのぐらいの日程で作って行くのか、また、その際には上流部会は殆ど関係がないのか教えてほしい。
- 事務局** : 目標については、地域の復興等も急ぎますので、早ければ年度内、遅くても来年度の早いうちには整備計画の策定にこぎ着けたいと考えています。  
上流部会については、必要に応じて開催させていただきます。
- 委員** : 定川周辺と、旧北上川河口の平場のところでは、被害の状況が多少違っていたような印象がありますが、違いを教えてください。
- 事務局** : 石巻大橋までの区間、内海橋までの区間につきましては、右岸は全く堤防がございませんでした。ですから海から浸入した地区は、海からの津波で大きく壊されたわけがございます。もちろん背後地から、あるいは運河等から回り込んだ水で浸水したエリアは多くあったわけですが、建物が壊滅的に壊れるか否かというのは、その堤防の有無で違っている区間があります。
- 委員** : 今回、その津波を考慮して計画を変えるということのほかに、以前と状況が異なり、地盤沈下している背後地の状況が変わってきているわけですね。ですから、例えば外水だけじゃなくて内水の災害も増えているでしょう。そうしますといわゆる河川の計画だけではなくて、総合治水的な、都市の復興計画と河川の計画とリンクして考えていかなければならないような気がするわけですが、最初に石巻の方からの説明にあった土地区分的な考え方の他に、例えば建物の構造や、排水計画とかと河川の計画とリンクするような要素はないのかということをお聞きしたいと思います。
- 事務局** : 石巻市では、今後下水関係の計画を今後詰めて行くことと聞いております。それに対して、例えばその内水処理における地域の状況把握や、概略検討ということで支援等を行っているところがございますが、お互い連携しながら、いろいろ検討等は進めさせていただいて、アドバイス等はさせていただいているところがございます。
- 石巻市** : 石巻の担当の者でございます。おっしゃる通り、石巻は地盤沈下が70~80cmもあるということで、この前の台風15号の時も内水被害が随分あった。今回の復興計画の中では、もち

ろん川からの外水防御というのももちろんですけども、われわれとしてはもともと低平地で排水が悪かったというところも含めて、しっかり市内の内部の水路も整備して、堤防と連携した排水計画というものを立てて行きたいというふうに考えています。また、川沿いにもともと市街地がありますので、今回の津波を踏まえた堤防を造ってもらい、川と市街地との連携を構築して行きたいと考えています。

●委員 : 石巻市は、今回の地震で地盤沈下がかなりひどい状況です。今後、北上川の堤防の整備をする時に、基盤も整備していかないと、常に逆流してくるという状況になりますので、堤防を造った場合には内水対策を十分するということが必要になってくるかと思えます。今まで堤防のない地域だったこともあり、川が見える、海が見えなくなるということに対して、懸念している住民の方々もおりますが、市民の安全を図る上から、堤防の整備をお願いしたい。石巻市では「水辺の緑のプロムナード計画」というのを作っていますが、災害に強いまちづくりを進める上で、堤防の構造とともに、水辺空間をいかに確保するかが大事だと思えます。

●座長 : 説明資料の中にも堤防の高さと周辺の街づくりの関係を重視することをはっきりうたってあります。高いものを作っても、それで人が来なくなることもあるわけですから、ハードな構造物をただ作ればいいものではないことをよく考えて、地元の方との連携、復興特区の融通性を利かすことを十分にご配慮のうえ、これから計画を練っていただきたい。

●委員 : 堤防を作ると用地が必要になるわけで、相当な土地が必要になってくる。川沿いの住民は立ち退きをしなければいけないが、そのあたりの検討はこれからということでしょうか。

○事務局 : 用地の関係ではまさにこれからだと思っております。まず安全度を規定する堤防の高さを決め、それに続いて平面計画、横断計画となります。しかしながら復興は待ったなしですので、石巻さんの復興計画の位置づけの中で早期に新しい形で整備できるように調整をしながら進めたいと考えております。

●委員 : 高さによって平面計画は違ってくるので、堤防の高さを一義的に決めるのではなくて、ちょっと下げれば、街づくりの計画の方が非常にうまく行くとか、そういうこともあり得ると思うので、そこら辺の調整も取りながら進めるといいかと思えます。

●座長 : 具体的にものを進めて行くと、いろいろなものが絡んでくると思いますが、何が本当に市民のためになるのかという観点でお願いしたい。

●委員 : 大川小学校の下流について、先に堤防の高さが決まっているものなのか、あるいはこの辺の農地をどう修復して行くかによって堤防の高さが変わるものなのかについて、考え方や今後のスケジュールを教えてください。

○事務局 : ご指摘のあった新北上川右岸の長面地区は、まだ田圃が冠水している状況です。現在、私どもを含めて県の農林部局、海岸部局等と連絡調整会議を行っております。その中で県としては、いま冠水している農地を復興させるため、海岸との締切りの道路を作って、長面排水機場の応急復旧を行い、ポンプ排水する計画で考えているとのこと。堤防の話と

しては、こうした農地の復旧計画に対し、海岸堤防の高さと併せた考え方をもって、市の復興計画とも合わせた堤防整備を考えております。

### 3. 北上川水系河川整備計画(原案)の見直し

(事務局より、資料－5：原案作成イメージ概要、資料－6：原案作成イメージ説明)

- 委員：自然現象は予算とか人間の都合と関係なく動くので、復興計画をあまり硬直したものにしないで、常に柔軟性のある計画が重要になって行くと思う。河口部の大量にあった砂がどこに行ったのか、戻ってくるのか来ないのかよく分からない。放っておいたらどの辺に海岸が出来るのか、そういうことを踏まえながら、計画を進めて行っていただきたい。
- 委員：これは国土交通省だけで決められる問題ではないんですけれども、無理やりに元の農地に戻すという考えではなく、堤防もきっちりとした強いものを作るということではなくて、川から海へのつながりというもの、それから生物生産とか、さまざまなことを考えながらの取組みが、もしも可能であれば、考えていくべきではないかというふうに思います。
- 委員：岩手県の広田湾でも、堤防が壊れて殆ど海水に浸かったので、3月11日以降の早い段階で地元の方が干潟として残す計画が新聞に載っている。新北上川でも、ヨシや干潟もあるので、海洋性海岸性の生物が昔の自然の状態に住めるような場所も一部残していただきたい。
- 委員：これから高齢化などを考えて行くと、今までの繰り返しでは駄目ではないか。前のように戻したとしても、果たして維持できるのかと言えば課題がある。従来の発想とは全く異なった、別な形での開発がいいという感じを持っております。
- 委員：(事業の分担について) 海岸堤防は1つの事業、それに整合するように河川ごとに事業をやるわけですが、津波の対策を川ごとに行うには違和感がある。津波の影響区間については、統一的に事業が進められるような仕組みはないか。
- 事務局：先ほど事務局からご説明しましたが、基本的な考え方は示されておりますので、この基本的な考え方に則って河川管理者ごとに計画を立ててやって進めていきます。その中で、私どもは石巻東松島地区復興防災基盤連絡調整会議というのを設けまして、関係者が全部寄り集まった連絡調整会議を今月の8日に設けまして、事務レベルで随時調整をしながら公の場できちんとオーソライズして行くという手続きを踏んで行こうと思っております。
- 委員：そういう調整の他に、実質として足並みがそろそろ仕掛けというのがあるのかという質問でした。
- 委員：先ほど追波湾を干潟にしてはどうだという話もあったが、環境省の国立公園ではなくて、干潟として国設公園にするアイデアもある。もう少し国土交通省の側でリーダーシップを取って、地域づくりを提案して行ってはどうでしょうか。
- 事務局：これまでの海岸堤防の決め方は個別の海岸ごとに高さを決めておりましたが、これでは同一の安全度は確保されないため、今回、一定の地形条件を加味した地域海岸(ユニット)として区分し、統一的な安全度をまず与える形になりました。国、県などにかかわらず、

どこの所管であれ一律の考え方の中で海岸堤防の高さを設定しているが、干潟があるなど状況にあわせ、それぞれの受け持った海岸管理者と地域で合意形成を図ることになっております。河川では、基本的には海岸堤防の計画に整合する形になっている。施設画面上、堤防方式で実施するか、水門方式で実施するかは、地域の社会経済的な影響などを総合的に考えて進めます。石巻海岸に位置する旧北上川、鳴瀬川、定川については、連絡調整会議という場で議論し、計画の整合を取って行く体制としております。

- 座長** : 津波で砂浜がなくなったが、戻りかけているというところもある。新北上川河口などは、4、5年そのままにして置いて、上流からの土砂と波との関係がどうバランスするのかを見極めて、それから堤防を作るなど、自然の力がどう動くのかを見極めてから物事を進めるのも良いと思う。外力は地域海岸ごとに対象を決めることで良いと思うが、全部ハードで守り切らねばいけないとは考えないで、地元にあった守り方を考えて行っていただきたい。
- 委員** : 長面地区の件で、干潟に再生するというようなご意見が随分出たんですけれども、私も2回ほど地区に行って、地区の代表の方にもお会いして来ました。あの地区というのはこの3月に圃場整備が終わったばかりで、共同の農業機械も購入して、さあスタートという時に津波にやられてしまった。高齢化している地域だという話も出ましたけれども、だからそれに対応する効率的な農業体制を作ったところに津波に遭ってしまった。地域の意思というのはすごく重要ですので、全部同じように戻すのはあまり現実的ではないかもしれませんが、全部を干潟、全部を自然というのはちょっと、それでは地元が気の毒過ぎると思います。
- 委員** : 長面の地域はかなりの数の行方不明者がいる。まずは仮設の堤防を作って、内水排除をし、遺体捜索を優先してやってくださいというのがあの地域の方々の切実な思いですので、是非住民の意向を踏まえて進めてほしい。その後ここをどういうふうにするかというのも、やはり地域住民の方々の考え方だと思っております。
- 座長** : いろいろなところいろいろな事情があり、住民が将来本当にそこで生きて行けるかどうか、希望が持てないわけですから、この河川整備計画を作ると同時に、いろいろな目配りをお願いしたい。

#### 4. 台風15号の洪水概要

(事務局より、台風15号の出水状況説明)

- 委員** : 一関遊水地は市街地への被害を防止したが、小堤が完成しておれば、収穫前の水田の冠水も防げた。これは狭隘部の治水対策とも関連する。今回の台風15号でも、狭隘部では家屋の被害はないが、庭先まで浸水した。小堤の整備をすると、その分だけ負担が狭隘部の方に掛かって行くこともあり、そののところを関連付けながら整備を急ぐ必要がある。それから内水対策は何も河口部だけの問題ではないので、堤防の整備が進めばおのずと次の課

題として出てくる内水問題も念頭におく必要があると思っております。

**○事務局**：ご指摘の通り、一関遊水地は6月末に続いて2回目の冠水でした。狭隘部、下流の狭隘部の整備が進まないと、小堤を閉めることができないという状態です。今回、改めて早急な整備の必要性について確認しましたので、今後も力を入れて整備したいと思います。

以 上